

本校を代表し、私から一言、お祝いの言葉を述べさせていただきます。新入生の皆さん、御入学おめでとうございます。皆さんの入学を教職員一同、心より歓迎し祝福申し上げます。また、御来賓の皆様、保護者の皆様におかれましては、御多用の中、本日の入学式に御参列賜りましたことを心より御礼申し上げます。

新入生の皆さんは、これから始まる高校生活を前に、大きな期待を抱いていることと思います。「勉強を頑張りたい」、「部活動で結果を残したい」、「友達をたくさん作りたい」、「学校行事を楽しみたい」といった様々な目標とそれに向かう行動力は、皆さんの高校生活に活力を与えてくれます。学校は、皆さんのそうした思いを実現するために、教職員一同、全力でサポートします。

一方で、「高校生活3年間で、自分はどう成長するのだろうか」、「勉強についていけるだろうか」、「友達はできるだろうか」といった不安もあると思います。そうした不安は、誰もが感じるごく自然な感情です。毎日の授業や学校行事を通して、やがて解消されるので、どうぞ心配なさないでください。

私も41年前の春、高校に入学しました。義務教育とは違い、通学する生徒の居住地が広範囲になるとともに、クラスには様々なタイプの生徒がいることに新鮮味を覚えました。勉強が得意な生徒、運動なら何をやっても抜群な生徒、楽器がとても上手な生徒、掃除を丁寧にやる生徒、いつも周囲を笑わせている生徒など、個性豊かなメンバーがそろい、毎日が刺激的だったことを覚えています。

高校生ともなると、心身が著しく発達するため、「私はどうあるべきなのか」、「私は集団にどう関わっていくべきなのか」といった、自分を客観視する機会が増えることと思います。自分を客観視できるようになると、人の目が気になって発言が控えめになったり、行動の際、躊躇してしまうことがあるでしょう。心の中で、「やらなくては」という思いがある一方で、「恥ずかしい」といった思いもあり、その葛藤で苦しむこともあるでしょう。そんな時は、どうぞ失敗を恐れず果敢にチャレンジする道を選択してください。そして様々な生徒から数多くの刺激を受け、より豊かな自分自身へと成長してください。仲間たちと切磋琢磨し、素晴らしい3年間となることを心から願っています。

保谷高校のことを少しだけ紹介させていただきます。

本校の教育目標は「知性高く 人間味豊かに 心身ともに健康な人を育成する」です。「知性高く」とは確かな学力、「人間味豊かに」とは豊かな人間性、「心身ともに健康な」とは健康・体力を指します。つまり、教育目標には知・徳・体の三要素をしっかりと育て高いレベルで文武両道を実現しようという願いが込められています。この目標は、本校のすべての教育活動の根幹をなしており、この目標の実現に向け、学習活動、学校行事、部活動、委員会活動等が実施されています。皆さんは、これから3年間、学習や学校行事、部活動などを通して、自身を磨いていくことになりますが、学校の活動のすべてが、この教育目標に収斂されているということを知ってほしく思います。

ここで、スーパースターや歴史上の偉人ではなく、ごく普通の村人^{むらびと}が、力を合わせ成し遂げた逸話を一つ御紹介させていただきます。皆さんは、新潟県長岡市にある中山^{ずいどう}隧道というトンネルを御存じでしょうか。このトンネルは全長 900 メートルほどのトンネルですが、その掘削作業のすべてが村人たちによる手彫りによって進められたことで有名なトンネルです。ちなみに手彫りのトンネルとしては日本一の長さだそうです。話は昭和初期、まだ車が一般的ではなかった時代のことです。新潟県長岡市の山古志という地域は長岡の山間^{やまあい}にあり、この地域の住民が、生活物資を購入したり病院に通うには、隣町に行く必要がありました。その道中には中山峠という峠があり、約 1 時間、歩いて峠を越えたそうです。峠といえば坂道が付き物で、ただでさえ歩くのがきついのですが、冬場ともなると積雪 4 メートルを超えるような豪雪となり、峠越えの最中、雪崩に遭遇し命を落とすこともありました。こうした危険をさけるために、この地域の住民は、安全で短縮ルートとなるトンネルの必要性を考えていましたが、当時はダイナマイトもシールドマシンもないため、掘削は手作業となることは百も承知でした。しかし、家族・住民・子供たちを守りたいという思いは何物にも勝り、1933 年に掘削作業を開始、20 年間、毎日掘り続けての完成を目指しました。電気も通らない闇の中、わずかなカンテラの灯りを頼りにしながら、ツルハシとスコップで掘り進めましたが、完成する当ても保証もない中、村人は無報酬で作業に当たりました。硬い岩盤に行く手を阻まれたり、土砂崩落の危険性もある中、それでも村人は掘り続け、1 日平均 30 センチほどしか進まない掘削作業を、最後まで諦めることなく、1949 年、昭和 24 年、16 年の歳月をかけてトンネルが貫通しました。中山隧道の完成により、山古志の人々は安全で効率よく隣の町まで移動できるようになりました。

16 年もの間、ツルハシとスコップでトンネルを掘り続けるという、気の遠くなるような話から、私は、村人たちの家族を愛する思い、住民を守る思い、自然災害から自分たちを守る思いなどを感じとることができるとともに、村人の強い思いが、決して諦めることのない、信念に基づいた行動に至らしめたのだと考えています。このエピソードには、どんな逆境にも屈せず、地道に物事を進めていけば、やがて大きな成果を生み出すことができると、私たちに投げかけているのではないのでしょうか。

高校生活は 16 年の月日よりもずっと短いですが、様々なことが待ち受けていることと思います。苦しいとき、諦めそうになった時、そんな時は、入学式で聞いた中山隧道の話思い出し、自分への励みにしていただければと思います。

保護者の皆様、お子様の高校での生活は、学業や部活動で心身共に疲労して帰宅することがあるかと思います。そんな時、お子様にはどうぞ温かなお声がけをしていただき、励ましていただければ幸甚に存じます。子育てで悩みがございましたら、どうぞ御遠慮なく学校に相談くださいませ。最後になりますが、新入生の皆さんが心身ともに健康で充実した学校生活を過ごし、自己実現へと邁進することを切に願います。

令和 7 年 4 月 8 日

東京都立保谷高等学校長 石丸 昌延